

來獻香飯。大地震動。南西北方諸佛世界。亦有無量無邊身菩薩。所持供養。倍勝於前。乃至毒蛇及惡業者。一切來集。唯除摩訶迦葉。阿難二衆。阿闍世王。及其眷屬。

〔後水尾院當時年中行事上二月〕十五日。御三間のひがしの方に、北首西面に涅槃像を掛て。前に机を置。香花佛供。餅等をそなふ。また佛前便宜の所に、柳の枝を立て捧物をかけらる。供御の御捧物院。女院御所々などのは勿論。女中内々。外様の番衆。采女。女官至るまで。たてまつりあつめたるもの。其を佛前におく。少分の物は柳の枝につく。秉燭のち舊院御ゆどいうへの日記は。或は翌日或は一兩日已後のこと見えたり。近年。捧物共の闇とりあり。禁中よりも院。女院へ捧物参る。般舟三昧院へも杉原十帖扇一本参る。女中衆よりも扇参る。下行あり。

〔内院年中行事〕二月十五日。涅槃ノ像被掛洞中ニ。前ニ白木ノ机。其上ニ香花燭備ナリ。左方ニ柳枝長一間計ナルニ。色々ノ掛物ヲ結付ル。洞中ノ男女上下獻之ナリ。此時ニ出御アリテ御拜セラル。いかゞナル事か不知。此外爲指事ナシ。

〔看聞日記〕永享五年二月十五日。今日涅槃之儀。梵佑是明等參。讀講式如例。捧物人々獻之。入江殿。水無瀨殿。捧物如例進之。

〔四座講式 涅槃講式〕先總禮。拘尸那城跋提河。在娑羅林雙樹下。頭北面西右脇臥。貳月十五夜半滅。南無大恩教主釋迦牟尼如來。生々世々值遇頂戴。次導師著座。次法用。次表白。敬白大恩教主釋迦牟尼如來。涅槃遺教。八萬聖教。娑羅林中五十二類。一々微塵毛端刹海不可說不可說。三寶境界而言。

夫法性絕動靜。動靜任物。如來無生滅。生滅約機。至如彼鞞瑟長者。捨檀塔中。見常住佛身。海雲比丘。大海水上。聞普眼契經。誰含歡喜之唉。于藍薺誕。生流痛惜之淚。于雙林入滅乎。是知八相一代之化儀。驚長眠群類之明燈。三百五十之諸度。渡沈淪諸子之飛梯也。其光照遠迄於末代。其濟度不捨乎。